

地域ぐるみの包括医療ケア講座を開催して ～顔の見える連携を目指した5年間の活動を検討する～

森山美恵子¹⁾、澤田弘一²⁾

1) 岡山県・前鏡野町地域包括支援センター主任ケアマネジャー、美作国・地域資源活用ビジネス推進委員会副理事長

2) 鏡野町国保上齋原歯科診療所所長、地域ぐるみの包括医療ケア講座部会部会長

鏡野町の概要

鏡野町は岡山県の北部に位置し、北は鳥取県、南東は津山市、西は真庭市に接している。山陽地方と山陰地方の中間、関西圏と広島県の中間に位置し、古くから山陽、山陰等の主要都市を連絡する交通の要衝となっている（図1）。

本町の地勢は東西24km、南北33km、総面積419.69km²であり、北部は中国山地の1,000m級の高峰が連なり、丘陵起伏して南部に開け、平坦肥沃な平野が展開している。気候は、夏冬の温度格差が大きい内陸型気候で四季の変化に富み、中国山系の影響で冬は北西の風が強く、山間部では寒冷地帯で積雪も多くスキー場もある。夏は南西の風が多く、温暖な気候に恵まれている。

年平均気温は12.0℃前後、年間降水量は1,800mm内外で、6月から8月に比較的多い。降雪期間は11月下旬から3月下旬であり、鳥取県の県境付近（旧上齋原村）では最大積雪深が2mを超える。初霜は10月下旬、晩霜は5月下旬まで見られる。

本町は平成17年3月1日に鏡野町、奥津町、富村および上齋原村の4町村が合併した。平成26年9月30日現在で岡山県内では最大面積の町、人口は1万3,808人、高齢化率31.05%である。

医療機関と介護施設の状況

苫田地域（苫田郡は鏡野町のみ）の医療施設は、民間病院（110床）と国保病院（88床）がある。無床診療所は民間7か所に加えて、国保診療所3か所がある。

図1 鏡野町の紹介

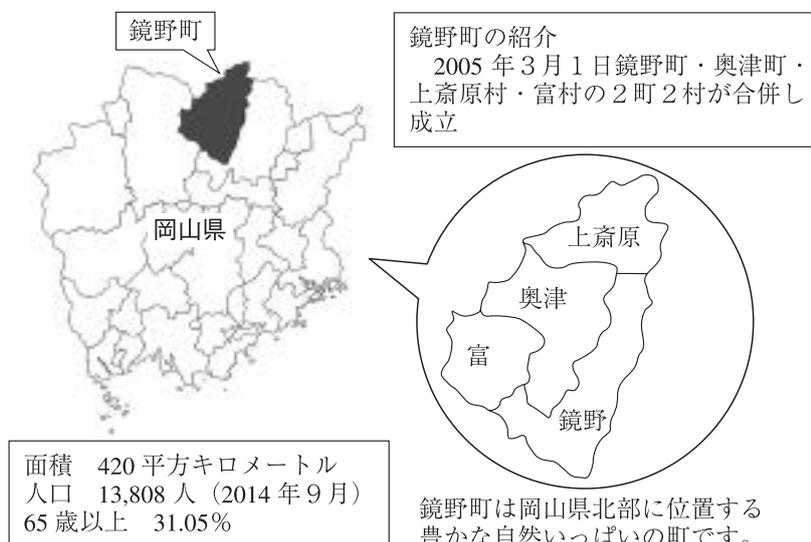


表 アンケート調査項目

平成 25 年度 地域包括医療ケア講座 アンケート調査	
1. あなたの職種は 医師 保健師 看護師 (複数回答可) 介護福祉士 社会福祉士 その他 ()	
2. 性別：男性 女性	
3. 年齢：20 歳代 30 歳代 40 歳代 50 歳代 60 歳代以上	
4. ケア講座の参加回数：初回 2～5 回 6～10 回 11～20 回 20 回以上	
ケア講座に参加して	
1. 以下の職種等との連携が 取りやすくなったと思いますか	2. 以下の分野の知識・技術の向上が 得られたと思いますか
a. 医師 b. 看護師	a. 口腔ケア・栄養 b. 感染予防・感染症
c. 介護職 d. 他の施設	c. 難病 d. 認知症
e. 行政	e. ターミナルケア f. 危機管理
思わない	非常にそう思う
1	2 3 4 5
3. 具体的にはどういう点でしょうか。自由にご記入ください	

国保診療所の医師は、国保病院および民間病院の派遣に依っている。歯科診療所は旧鏡野町に3か所(民間)、旧富村、旧上齋原村および旧奥津町(平成24年4月新設)にそれぞれ1か所ずつ(国保)ある。

本町の介護施設は特別養護老人ホーム2か所、老人保健施設1か所、グループホーム4か所、小規模多機能型介護施設4か所、養護老人施設1か所である。なお、介護施設は旧鏡野町に偏在しており、山間の旧3町村に不足している。

地域ぐるみの包括医療ケア講座の 発足の経緯と概要

平成20年の介護保険法改定時に、町内の介護・看護職員より介護保険制度の内容について勉強したいとの要望があり、自主的な勉強会を始めた。この会はやがて地域で働く医療・介護職員の知識・技能の向上と、相互の人間関係を構築し、「顔の見える連携」を推進することを目的として発展した。その後、「住みつけたい町づくり」を目標に、住民、医療および介護に携わる方々に対して、「地域や家族によって隠されている医療および介護の諸問題(口腔、認知症、自殺、難病など)」を取り上げて活動してきた結果、平成22年からは行政組織・地域ケア委員会の部会としての研修会となった。

この講座(以下、ケア講座)は、医師・歯科医師・看護師・介護職員・介護支援専門員・行政関係者等の多職種、さらには民生委員、患者団体も参加し、1～2か月に1度開催している。当町から、社会福祉協議会に委託された当町唯一の地域包括支援センターがコーディネーターを行い、講師は町内の医療職および介護職がボランティアとして依頼した。

ケア講座終了時に毎回アンケートを行い、参加者の希望に応じて口腔ケア、感染予防・感染症、難病、認知症、ターミナルケア、危機管理、栄養・胃ろうなど、町内の医療職および介護職が、今勉強したいことを勉強することが基本とする、自由で自主的な運営を目指した。

ケア講座参加による効果

今回、ケア講座を行う上で行ったアンケート結果を紹介し、今後の介護予防・健康づくりに寄与する活動を参加者の反応をもとに考えた。アンケート調査は、連携と知識・技術につきスケール法で行った(表)。参加者71名に配布し有効回答数49名、回収率約69.0%であった。職種は医師1名、看護師18名、介護支援専門員10名、介護福祉士15名、社会福祉士1名、訪問介護員5名であった。性別では男性1名、女性42名、年

図2 アンケート集計結果

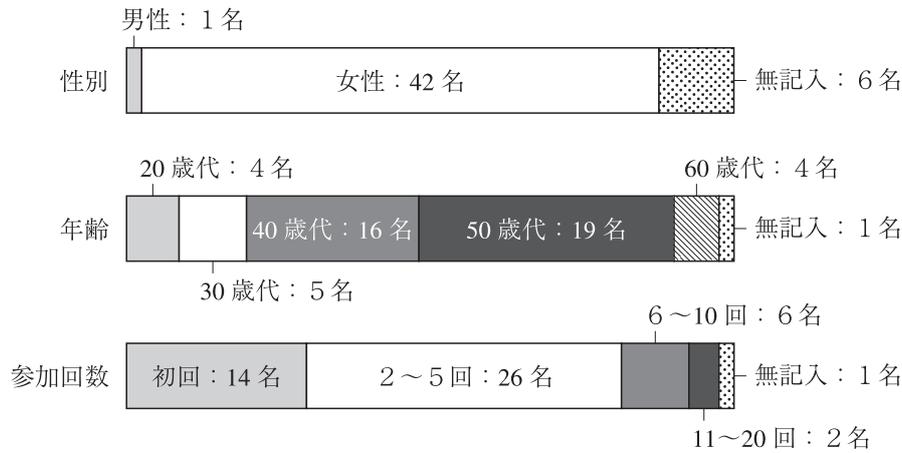
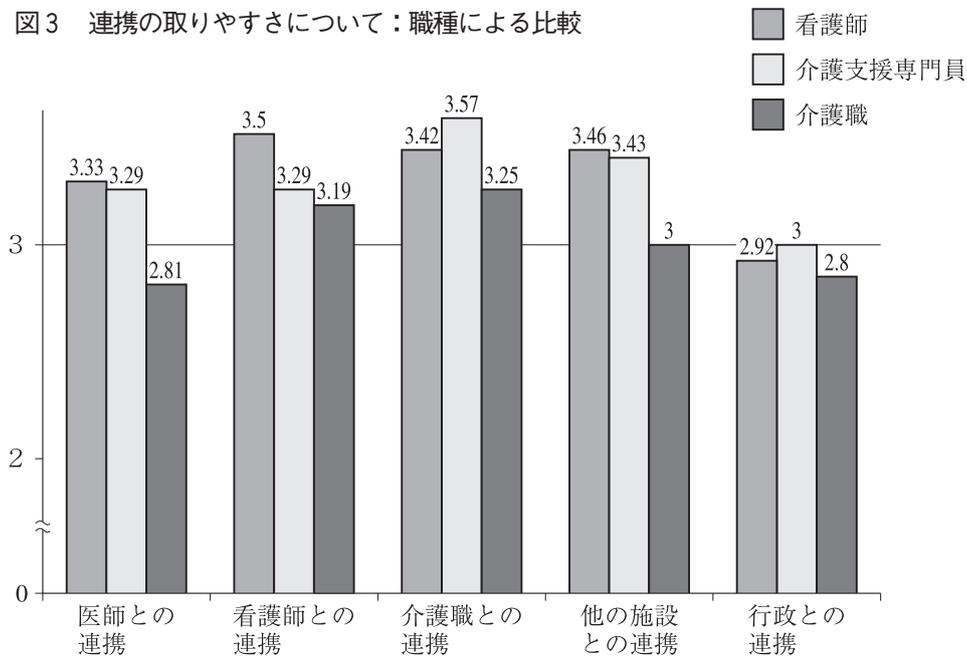


図3 連携の取りやすさについて：職種による比較



年齢は40歳～50歳代が35名と大部分を占めた。ケア講座参加回数は2～5回が26名であった(図2)。

連携の取りやすさについては、介護職に他職種との連携に困難を感じる人が多く、特に医師との連携を難しく感じている人が多かった。また、どの職種も行政との連携を困難と感じていた(図3)。希望する知識・技術を向上したい課題種別に関しては、職種による違いはなく、口腔ケア・栄養、難病についての研修を希望する人が多かった(図4)。

他職種との連携の取りやすさについて、ケア講座にどれだけ多く参加したかでの変化があるかどうか調査し

た。参加回数が多くなるにつれ、医師・看護師・介護職との連携ができやすくなっていた。行政との連携は参加回数に関わらず困難と感じていた(図5)。知識・技術の向上について、初回参加者に比べ複数回参加者に向上したと感じている人が多くいた(図6)。

自由記載では「顔見知りになるので話がしやすくなった」「医師から話を聞き、話をしやすい先生だと思った」「他の施設の方と話ができて良かった」「職種に関係がなく意見交換・情報提供の必要性を感じた」等があった。

図4 知識・技術の向上について：職種による比較

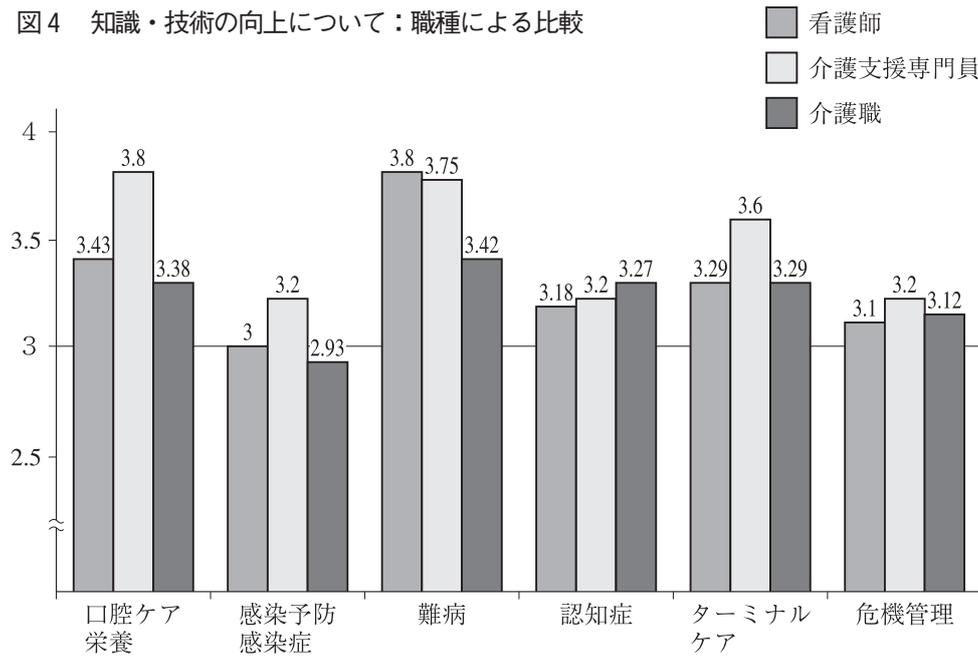
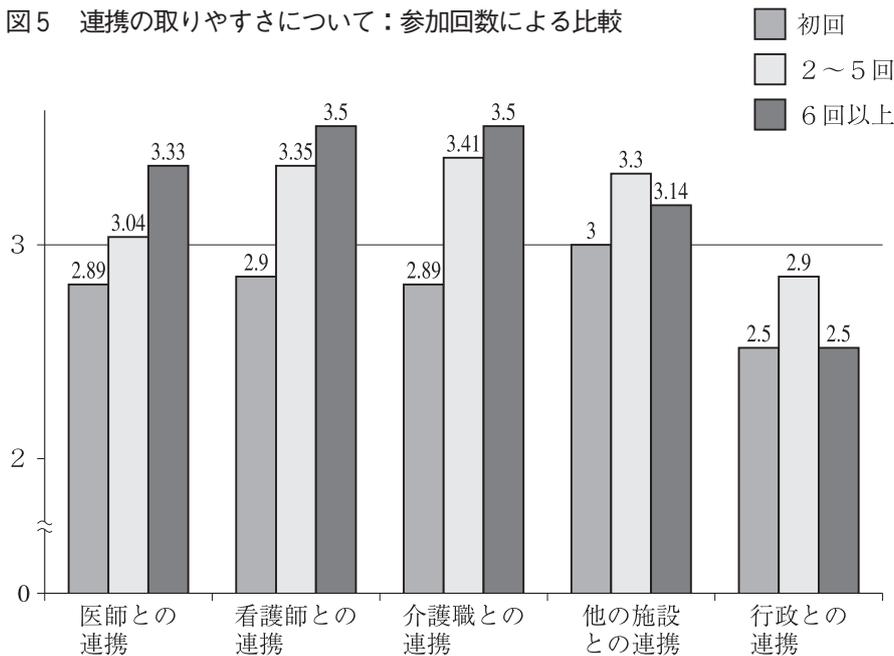


図5 連携の取りやすさについて：参加回数による比較



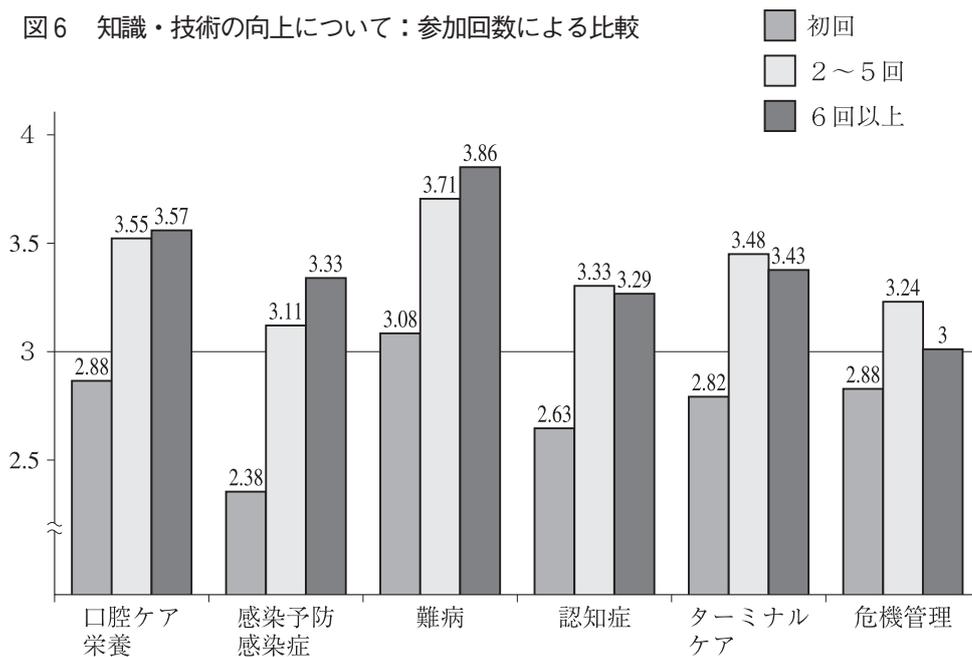
考察とまとめ

今回のアンケートは難病のケア講座終了後に行った。そのため、医療職が他の講座より多く見られた。また医師の回答が1名だが、司会・座長などスタッフとして計7名が参加しており、アンケート対象者から外れていた。アンケートより、介護職が特に医師との

連携に困難を感じている現状と、参加回数が多くなるほど連携がしやすくなっている結果を見ると、私たちの行っているケア講座が顔の見える連携に役だっていると思われる。知識・技術についても参加者に向上が見られ、町内介護福祉施設での肺炎発症を減少できたこと等、実際の効果も表れている。

ケア講座は地域包括支援センターがコーディネーターとなっているが、町内の介護施設・職員がスタッフ

図6 知識・技術の向上について：参加回数による比較

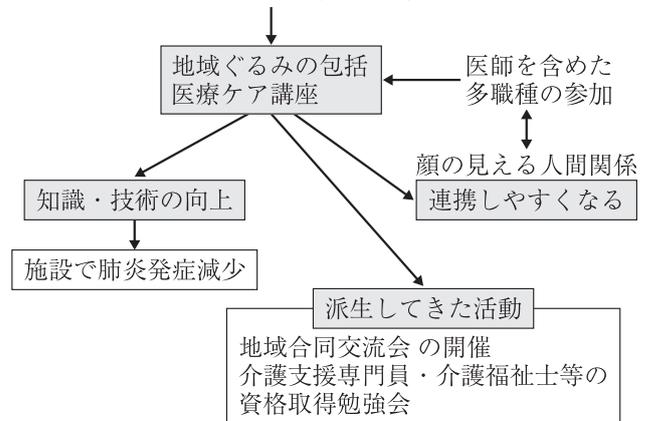


として参加しており、ケア講座の企画等を通して医師を含めたネットワークが構築できた。これをもとに町内の介護施設が一堂に会し、自分たちの活動や施設の紹介を地域の方に行う「地域合同交流会」や介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士の資格取得を目指した勉強会なども立ちあがっている。

今後も医師を含め、多職種の参加するケア講座を継続するとともに、アンケートで困難を感じられていた行政との連携が構築できるように検討していきたいと思う(図7)。

図7 医師を含めたネットワークが構築

介護職が特に医師との連携に困難を感じている
意欲はあるが一人では勉強が難しい



美作国・ 地域資源活用ビジネス推進委員会

現在、私たちは社会福祉協議会を退職し、地域包括支援センター勤務からも退いた。そして、このケア講座をより発展的に行うために、新たな民間の団体を発足した。「美作国」とは、鏡野町を含む岡山県北部の広範囲な地域の名称である。さらに、医療・介護の知識と技術向上に加えて、参加者においても地域においても広範囲な取り組みを展開している。すなわち、さまざまな業種の専門家が集まり、地元鏡野町、津山市、美作市のあらゆる資源を有効活用し、安心・安全・健康を大切に、食・文化・福祉・

教育・観光等に貢献する農産物生産や米・野菜づくり、酪農、農商品開発、福祉環境の整備・充実、子育て・親育てなどの分野における営利活動を行い、その情報発信を行っている。

その情報は、日本全国や海外にも積極的に情報発信を目指している。また、当会に関わる人々の輪を広げ、「美作国」の雇用拡大に貢献し、地元で就業し経済的に豊かな暮らしを手に入れ、地域の発展に関わる新産業創出の環境づくりに貢献することを目的として活動している。